

県・市町村のDXに係る取組はR4年度にスタート、**1年間の取組の中で見えてきたことは以下のとおり**

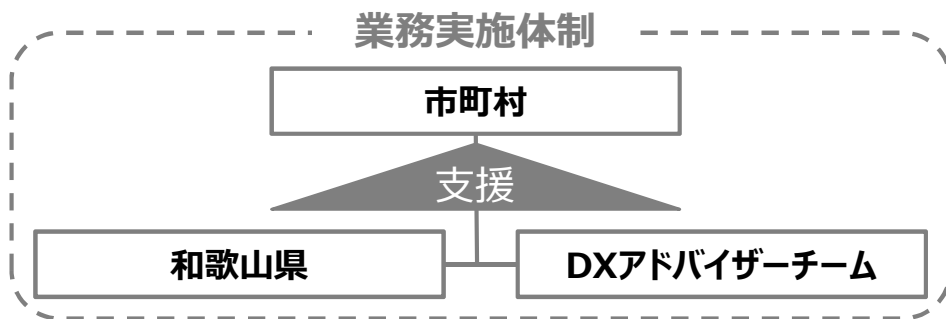
- DX専門部署を設置している団体は一部であり、ほとんどの団体において、総務または情報部門が他の業務との兼務で、慢性的に人員不足
- 市町村DXといっても一括りにできるものでなく、県内30市町村それぞれに現状が異なっており、課題解決に向けたきめ細やかな支援が必要
- 何からどのように取り組めばよいのかわからないとの声が圧倒的に多く、課題を整理する段階から、団体が相談できる人材が求められている

- 法律の定めに基づく同じ業務であっても、申請様式や処理方法に違いがあり、団体ごとに異なる業務フローが存在している
- 共通業務の改善にあたり、団体間比較を実施したうえでやり方を揃える標準化に取り組んでおり、そうすることで知識・ノウハウが共有しやすくなる
- 入口から出口まで、一貫したデジタル処理で完結する姿が理想であり、デジタルツールを導入するにも、業務が標準化されていることが望ましい

団体ごとに異なる現状・課題・ニーズに対して、  
**“個別対応”する領域**

### ①人材確保・育成支援

- 外部のDXアドバイザーチームによる「よろず相談」の実施
  - ・ 各市町村を直接訪問し、職員とともに個別課題へアプローチ
- 役職に応じた研修会の開催、一般職員向け研修動画の作成
  - ・ 職場の意識改革・気運醸成に繋がる研修メニューを充実



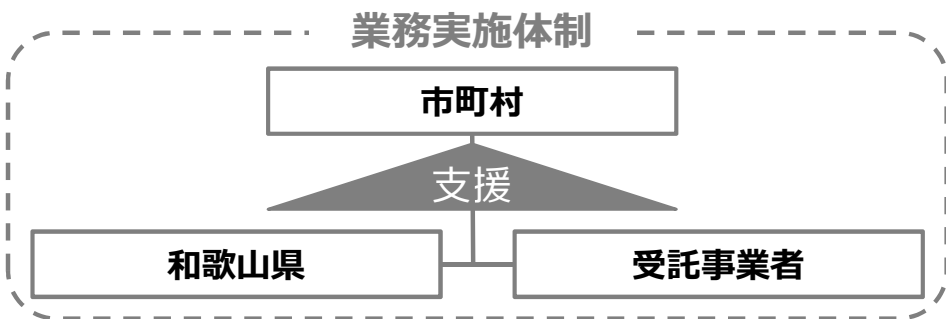
スケールメリットが最大限発揮されるよう、  
**“全体対応”する領域**

### ②定型業務の見直し(BPR)支援

- 全市町村に共通する定型業務の見直し・標準化
  - ・ R4年度事業を継続し、自走に向けた知識・ノウハウを蓄積

### ③RPA導入支援

- デジタルツールを活用した業務フローの提案・実践
  - ・ RPAの標準シナリオを作成し、希望市町村で試行・検証



**R5年度は、県が確保した「DXアドバイザーチーム」及び「受託事業者」を市町村で共有する仕組・体制を構築**

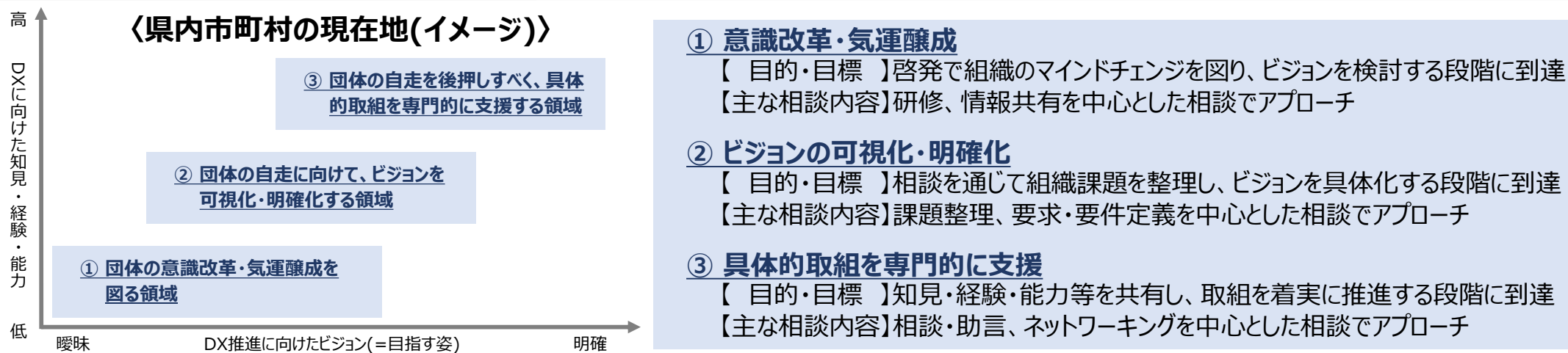
# DXアドバイザーによる『よろず相談』をスタートします

## R4年度の取組で見えてきたこと

- DX専門部署を設置している団体は一部であり、ほとんどの団体において、総務または情報部門が他の業務との兼務で、**慢性的に人員不足**
- 市町村DXといっても一括りにできるものでなく、**県内30市町村それぞれに現状が異なっており**、課題解決に向けたきめ細やかな対応が必要
- 「何からどのように取り組めばよいのかわからない」との声も多く、**課題を整理する段階から、団体が相談できる人材が求められている**

**団体ごとに異なる現状・課題・ニーズに個別対応するため、R5年度より、県が確保したDXアドバイザーによる『よろず相談』をスタート**

## 現在地のイメージ、相談の目的・目標



## 『よろず相談』の全体の流れ

**初回面談**

〈オンライン〉

**全体相談**

〈訪問〉

**分野別相談**

〈訪問+オンライン〉

**任意相談**

〈訪問 or オンライン〉

**最終面談**

〈オンライン〉

- 総括アドバイザー1名、専門アドバイザー(BPR・情報システム)各1名の**3名×2チームの編成で、紀北・紀南地域をエリア別に担当**
- 首長を対象とした「**トップセミナー**」、全体相談の訪問に合わせた「**対面研修**」、認識共有・気運醸成を図る「**動画研修**」も実施
- \* DX担当職員向けのキャンプ企画、先進地視察等についても検討中